

令和3年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和3年9月29日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

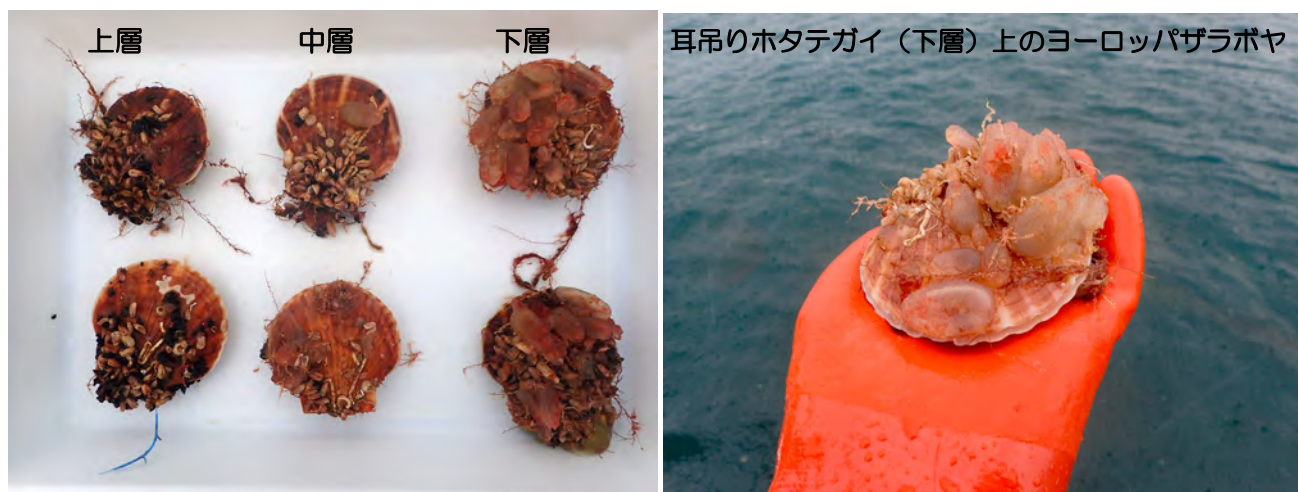
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

9月23日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図1、図3上）。付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり16.0個体で（表1）、過去10ヶ年の平均値の1/2以下です（図3上）。
- 平均サイズは平年並みのため、付着重量も過去10ヶ年の平均の1/2以下となっています（図3下）。
- 5mm未満の微小な個体の占める割合は低くなり、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は少なくなっていると考えられます（図2）。
- 今年は付着量が多い年ではないと考えられますが、耳吊り時期や場所により、付着量にはバラツキがあります。新たに付着する個体は少なくなっていると考えられますので、付着量が多い場合は、貝洗い等の対応を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和3年9月23日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和3年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：9月23日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり16.0個体、平均サイズは18.0mmでした。前回の調査（25.3個体）から、個体数は減少しました（図3上）。平均サイズは過去10ヶ年の平均（17.2mm）とほぼ同じです。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約2割で、今後成熟個体の割合が高くなると考えられます（図2）。10月以降、付着個体の成長に伴い、付着重量は増加すると見込まれますが、今年は付着個体数が少ないことから、増加のペースは例年よりも緩やかになると考えられます（図3下）。ただし、出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出る場合があります。付着状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和3年9月23日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	38.0g	40.1g	58.5g	45.6g
ヨーロッパザラボヤ	0.7g	7.4g	27.0g	11.7g
その他	37.3g	32.7g	31.6g	33.9g
ヨーロッパザラボヤ個体数	2.8個体	12.2個体	33.0個体	16.0個体
令和2年9月（R2.9.29） の個体数	38.2個体	56.6個体	32.8個体	42.5個体
令和元年9月（R1.9.18） の個体数	28.0個体	21.4個体	46.4個体	31.9個体
平成30年9月（H30.9.20） の個体数	5.6個体	36.0個体	88.0個体	43.2個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和3年6～9月）

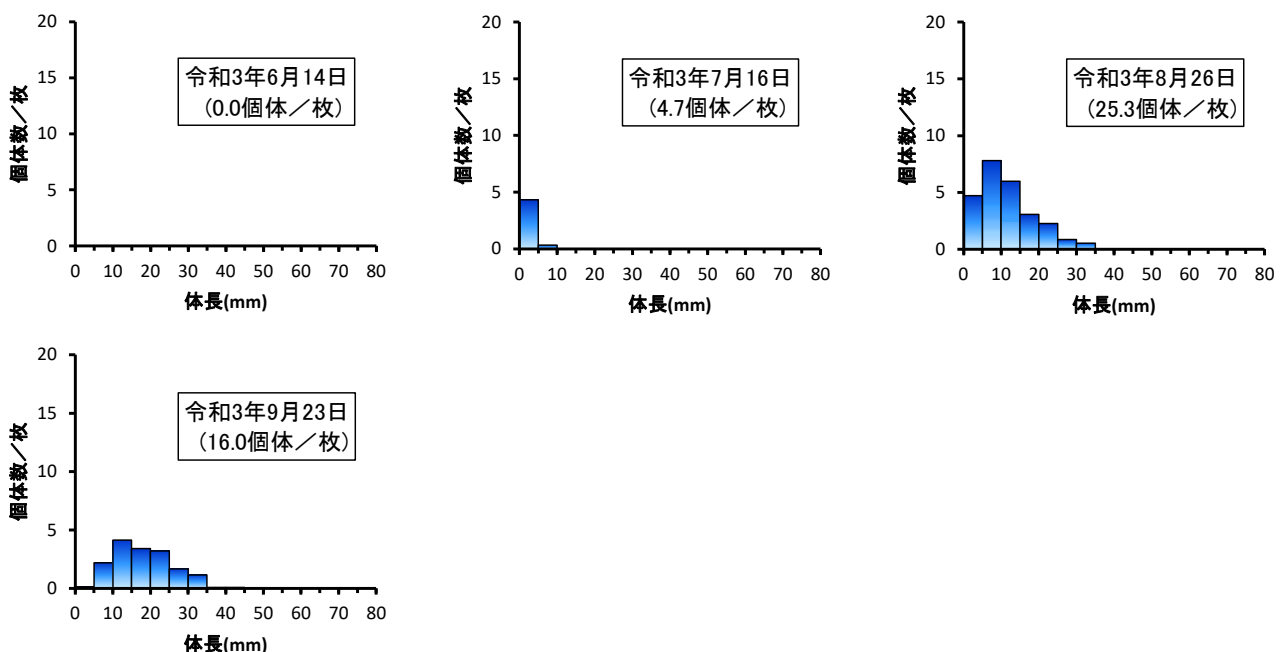
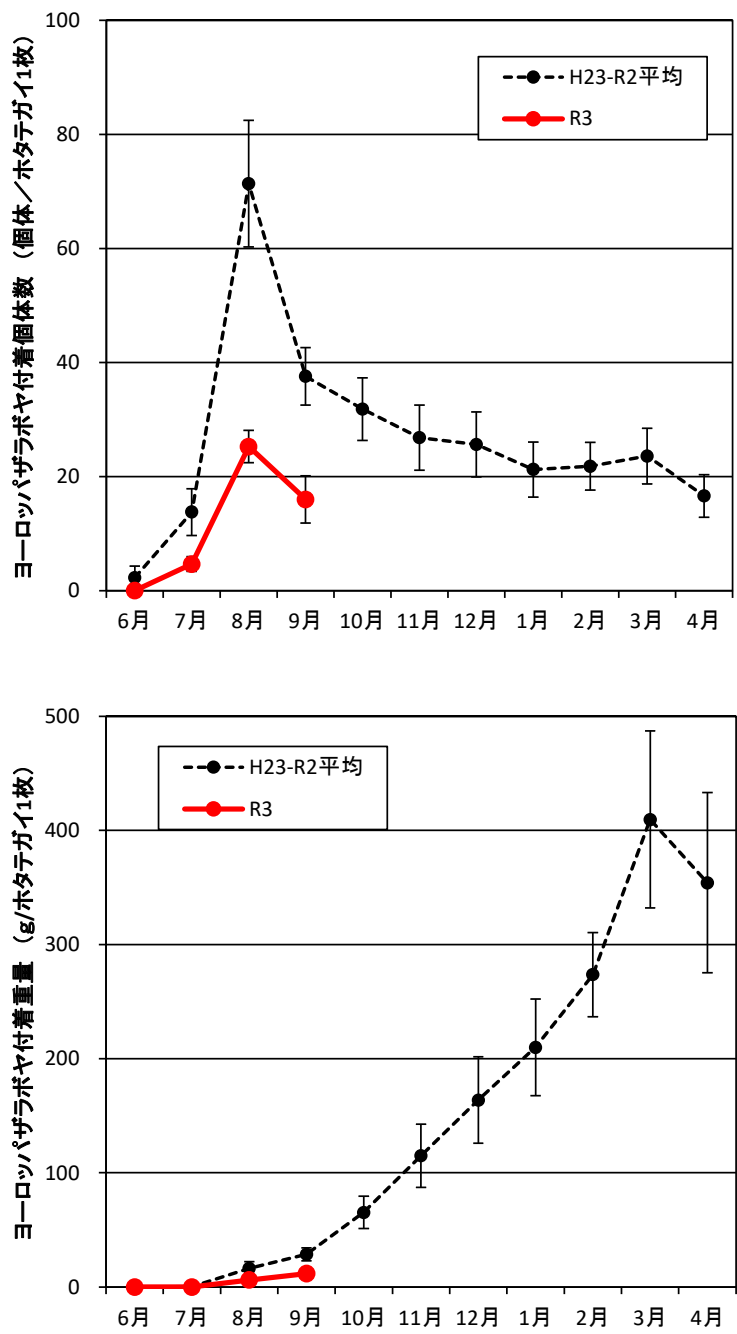


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H23～R2年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。今年は、付着個体数が少ないことから、重量の増加ペースは例年よりも緩やかになると見込まれます。